

# 横浜農場の展開

## 1 横浜農場とは

横浜は大都市でありながら、市民に身近な場所で、野菜や米をはじめ肉などの農産物まで多品目の農畜産物が生産され、美しい農景観が広がっています。また、意欲的な生産者、市内産農畜産物を利用する飲食店・事業者、「農」に関心が高い市民（消費者）など、様々な主体が関わって地産地消を進めているのも横浜の特徴です。

このような、横浜らしい農業全体（生産者、市民、企業などの農に関わる人々、農地・農景観、農業生産活動など）を一つの農場に見立てて、「横浜農場」という言葉で表しています。



横浜農場。



横浜農場のロゴマーク（3種類）

## 2 横浜農場の展開

「横浜農場」の特徴を生かし、様々な主体が積極的にかつ互いに連携し合い、「横浜農場の展開」を図ります。

また、観光や食育との連携を進め、横浜の食や農による都市の魅力向上にもつなげます。



「横浜農場の展開」にあたっては、以下の取組を強化しながら進めていきます。

### ■人材・場の活用や各分野との連携

特に地産地消に関わる人材の育成や企業との連携を強化し、協働して横浜ならではの都市農業の活性化を目指します。



里山ガーデンフェスタでの  
JA 横浜による  
市内産農産物の販売（旭区）  
（令和元年）



里山ガーデンフェスタでの  
飲食店による  
キッチンカーの出店（旭区）  
（令和2年）



市内企業による  
「横浜農場小松菜カレー」の開発・販売

### ■都心臨海部での展開

市内産農畜産物を購入・味わえる場や機会の拡大を、農地が少ない都心臨海部を重点に取り組みます。



NEWoMan 横浜での横浜野菜販売（西区）  
（令和2年）

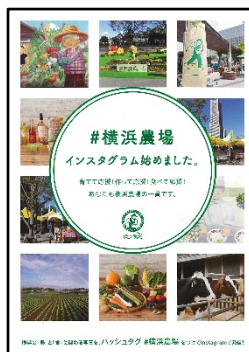


食と農の祭典 2020@横浜農場  
（横浜市庁舎）

### ■プロモーションの強化

「横浜農場」のロゴの市内産農畜産物への表示、イベントや広報等での積極的な活用を進めます。

Instagramを活用した  
「#横浜農場」の発信  
（令和2年）



ロゴマークを表示した野菜